

2025

親子で学ぶ平和学習資料

私の戦争体験

第47集

おじいさんやおばあさんが体験した
大切な大切なお話の数々

巻頭特集「思いをつなぐ。未来につなげる。」… P2

「私の戦争体験アーカイブ」のご紹介 … P4

戦争の記憶を振り返って 小間 久子 … P5

私の戦争体験 今澤 廣司 … P8

私の戦中戦後 人生の糧 佐藤 弘仁 … P11

残留孤児にならず、連れ帰ってくれた、父母に感謝！ 永井 美恵子 … P14

大阪大空襲による二度の被災体験 谷川 勝二 … P17

母の赤紙 坂本 美枝子(代筆 坂本敬子) … P20



くらしに笑顔お届けします

大阪いずみ市民生活協同組合

戦争の記憶を 振り返って

堺市 小間 久子 91歳



満90歳を迎え、段々戦争体験者が少なくなってきた今日、私も今一度当時を振り返ってみる事に致しました。昭和9年7月（1934年）大阪市天王寺区で生まれた私は近くに四天王寺、愛染さん、生玉神社が有り、お祭りには、子供ゆかたで金魚すくい、風船、お面等買ってもらい近所の友達と楽しんで遊んだものでした。

大江幼稚園、大江国民学校（小学校）へ入学した1年生の夏に大東亜戦争（第二次世界大戦）が勃発いたしました。シンガポール陥落で提灯行列や小旗を振つての町内行進もつかの間、其の内に衣類や学用品は云う迄も無く食べる物もまっならない生活が始まり

・国民学校

1941年（昭和16）、それまでの小学校が国民学校に改められた。子どもは、個人の子どもではなく、お国の子どもとして教育され、戦争につながる教育が行われた。

・大東亜戦争（第二次世界大戦）

太平洋戦争。1941年（昭和16）の開戦から1945年（昭和20）の降伏調印までの日本「大日本帝国」とアメリカ・イギリス・オランダなどの連合国との戦いのこと。

・シンガポール陥落

第二次世界大戦中に日本軍がイギリス軍のシンガポール守備隊を降伏させ、シンガポールを占領した出来事。

・提灯行列

祝賀の行事などのとき、祝意を表すために多くの人が夜、火のついた提灯を持ち、列を組んで行進すること。また、その行列。



ました。白米から麦飯、大豆飯、芋飯、大根飯、雑炊、**すいとん**、粒無しの汁だんご等々、昭和19年に入ってからのは、草パン、芋のつる、いなごの佃煮、今思えば、これも生きる為の手段だったんだと母に感謝致します。昭和20年3月13日の**大阪大空襲**で住みなれた天王寺の家は跡形も無く焼けてしまいました。私達は幸いにも其の半年程前に堺の浜寺昭和町に引越しておりましたので直接の**空襲**には遭わずにすみしました。しかし父の実家の住居は堺の神明町でした。7月10日の**堺空襲**の時は雨の様に降ってくる**焼夷弾**の中をくぐり抜けやっと祖母を頭に家族7人が私の浜寺の家迄たどり着く事が出来ました。

喜んだのもつかの間、其の中の一人の従姉妹が**腸チフス**にかかり、入院する病院も医者も無く、1ヶ月足らずで20歳の若さで亡くなってしまいました。大阪市内から知り合いの僧侶に來てもらって**座棺**におさめ、形ばかりのお葬式を致しました。偶々出棺の時に**玉音放送**（8月15日正午）がラジオより流れて参りまして、これも日本が勝つと信じ、**挺身隊**の一員として、お国の為に一生懸命に尽くした従姉妹への手向けだと家族で慰め合いました。金岡の火葬場へ行ったのですが入り口から棺の山で悪臭が漂い、いつ焼く事が出来るか解らない棺からは、**うじ虫**がはい出しているのです。当時12歳の私には酷過ぎる光景だったと思われま。終戦から丁度1年過ぎた頃に従姉妹のフィアンセがフィリピンから**復員**して参りまして、首を長くして待つて居てくれると信じて訪ね訪ね、やっとたどり着いた私の家で変わり果てた従姉妹の姿に遭遇し、只、お骨の前で男泣きに泣きくずれていらっしやった姿が今も私の目に焼きついております。

父は軍隊より徴用を命じられ、1ヶ月あまり留守にしましたが、帰ってからは私達家族（父、母、私、弟、妹、生後8ヶ月の弟）6人の為に**防空壕**を掘ったり畠を耕したり、重いリュックサックを背に田舎へ食糧品の買出し等で無理が重なつて急性肋膜炎になり、8月15日の**終戦**の玉音放送を聞きつゝ出る涙を拭う力も無く9月8日に息を引き取りました。戦前、戦中、戦後と生き抜いて今日の平和な日を送らせて頂いている私にとって今世間に叫びたい事は只一つ、戦争は勝つても負けても悲惨です。今の平和をいつまでも守って欲しいと望むばかりでございます。



空襲を受ける旧市内南部 昭和20年7月10日 写真提供：堺市

・**すいとん**
小麦粉の生地を手で千切る、手で丸める匙ですくうなどの方法で小さい塊に加工し、汁で煮た日本料理。

・**大阪大空襲**
おおさかだいくうしゅう

1945年3月13日深夜から翌日未明にかけて最初の大阪大空襲があり、その後、6月1日、6月7日、6月15日、6月26日、7月10日、7月24日、8月14日に空襲があった。これらの空襲で1万人以上の一般市民が死亡したと言われている。

・**空襲**
くうしゅう

航空機から地上を爆撃したり、銃撃したりすること。

・**堺空襲**
さかいくうしゅう

第二次世界大戦中、堺市では5次にわたる空襲があり、1945年7月10日の空襲では、一夜にして1800人以上の命が失われ、多くの市民が犠牲になった。

・**焼夷弾**
しょういだん

敵の建造物や陣地を焼くことを目的とした砲弾や爆弾。木造の日本家屋を効率よく焼き払うために使用された。

・**腸チフス**
ちようちふす

サルモネラ的一种であるチフス菌によって引き起こされる感染症の一種。

・**座棺**
ざかん

体育座りのような状態で遺体を納める棺。

・**玉音放送**
ぎよくおんほうそう

1945年8月15日正午から昭和天皇自らが太平洋戦争終結の決定を国民に伝えるために行ったラジオ放送。

・**挺身隊**
ていしんたい

危険な任務を遂行するため身を投げうつ覚悟で組織された部隊のこと。

・**うじ虫**
むし

ハエの幼虫で、汚物や腐敗物に発生する。傷口に寄生することもあり、不快感や激しい痛みを引き起こす。

・**復員**
ふくいん

戦時体制の兵役を解かれ、戻ってくること。

・**防空壕**
ぼうくうこう

空からくる敵の攻撃に対し、避難するために掘ってつくった穴やみぞ。

・**終戦**
しゅうせん

1945年8月15日、正午からのラジオ放送により、ポツダム宣言の受諾、日本の降伏が国民に公表され、太平洋戦争が終結した。

私の戦争体験

藤井寺市 今澤 廣司 88歳



「バリッ、バリッ、バリッ」、この音は、**グラマン（艦載機）**から**機銃掃射**を受けたときの音です。今も耳の底に残っています。

昭和20年春4月、祖母（70歳）と私（8歳**国民小学校2年生**）が、2人で自宅裏の田圃の中に作った**防空壕**。畳3帖分ぐらいの広さで1・5mぐらい掘り上げ、丸太を並べて、その上から土をかぶせた4、5人入れる程度の簡単な防空壕でした。よく水が湧いてくるので時々バケツを持って排水に入ります。2人で水を汲んだり、壕の中で整理していた時に機銃掃射を受けました。幸い壕の中に居たので無事でしたが、グラマンの機影がハッキリと見え

ました。

「バリキ」これは**大八車**を牛に引かせて物品を運搬するものですが、自宅の前の道路を数台連らねて通って来たとき、この機銃掃射を受け、人夫達が慌てて家の中に飛び込んで来たと言っていました。

大阪大空襲の日は、天気快晴で雲一つない青空でした。今も耳に残る**B29**の爆音、大編隊で大阪市の工業地域に銀色のキラキラ光る爆弾を投下していくのを、自宅の裏から母や祖父母と一緒に望見していました。丁度その時、朝早く出て行った電車通勤の父が、ひよっこり裏から帰って来ました。アベノ橋まで行く途中の河内天美で電車が止まり、住友伸銅場桜島工場が爆撃されているのを人づてに聞いて帰って来ました。工場では飛行機のプロペラを作っていたのですが、防空壕の中で沢山の人が倒れていたそうです。

B29の爆音は今も忘れませんが、このB29が布施に落ちたと言うので、祖母と2人で見物に行きました。機体の後部が地面につきささっており、真っ黒のゴム製の5m四方ぐらいの大きな燃料タンクが落ちていました。沢山の人が見物に来ており、一列に並んでゆっくり見ることができ、その大きさに驚きました。

布施から近鉄電車で上六に出ると一面焼野原で、所々に土蔵の倉が白く残っていて、焼跡特有の臭いが立ち込めていました。そんな中、腰の曲がったおばあさんが、アメリカ兵の骨だと

・グラマン（艦載機）

アメリカ合衆国のグラマン社が開発しアメリカ海軍が第二次世界大戦中盤以降に使用した艦上戦闘機。

・機銃掃射

機関銃の銃口を動かし、敵をなぎ払うように射撃すること。

・国民学校

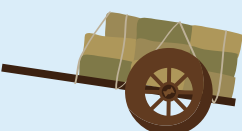
1941年（昭和16）、それまでの小学校が国民学校に改められた。子どもは、個人の子どもではなく、お国の子どもとして教育され、戦争につながる教育が行われた。

・防空壕

空からくる敵の攻撃に対し、避難するために掘ってつくった穴やみぞ。

・大八車

荷物運搬用の、2、3人でひく大型の二輪車。



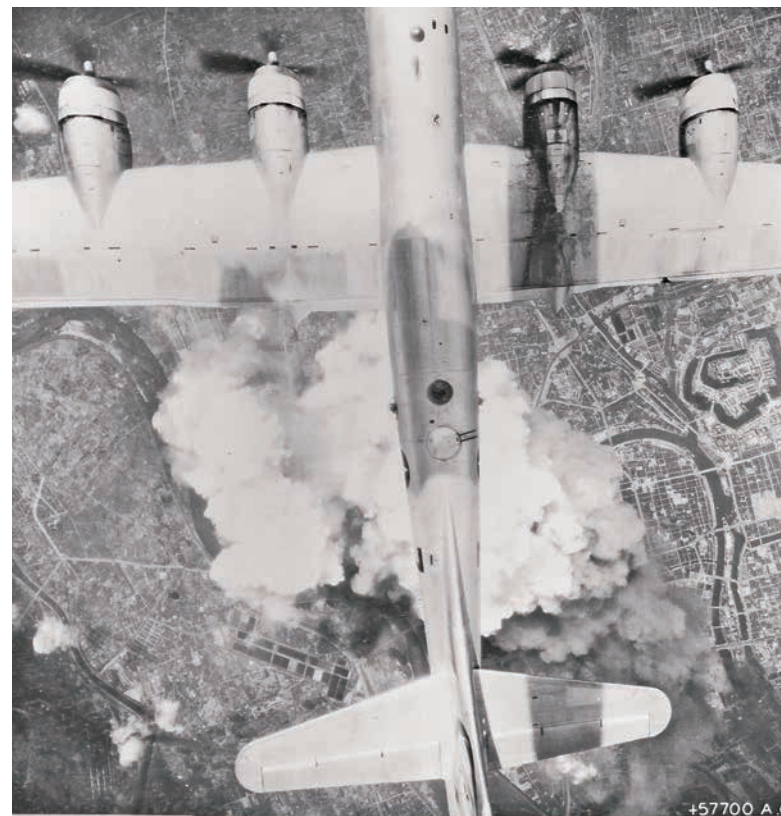
・大阪大空襲

1945年3月13日深夜から翌日未明にかけて最初の大阪大空襲があり、その後、6月1日、6月7日、6月15日、6月26日、7月10日、7月24日、8月14日に空襲があった。これらの空襲で1万人以上の一般市民が死亡したと言われている。

・B29

アメリカのボーイングが開発した大型戦略爆撃機。B29による日本本土空襲は、日本の継戦能力を喪失させる大きな要因となった。

聞いたと言つて、黒く小さい固まりを「アメリカめ、アメリカめ」と言いながら足で蹴つてい
るのを見ました。
今思い返してみると悲しいことばかりが思い出されます。「不戦の誓い」を絶対に護るべき
であります。



大阪を襲う「超空の要塞」 B29 右主翼下に大阪城が見える
(1945年6月1日) 写真提供：米国国立公文書館
U.S. Air Force, U.S. Air Force Number 57700AC

私の戦中戦後 人生の糧

和泉市 佐藤 弘仁 86歳



父が満鉄に勤めていたので、私は昭和14年に満州開拓団小城自警村で生まれた当年86歳になります。父は二等兵警備員で上官から常に暴力を受けていたとか。戦前の軍隊の実情。子供は男3人女3人で私は次男坊で誕生。兄と中国人と韓国人の子供らと野山を駆けめぐり楽しく遊びまわり、やつれた犬とおもってたら狼とわかりびつくり、大陸ならではの思い出。家の中はオンドルで暖かく現地人から豚一頭の差入等で衣食住には困らず、時々ハルピンでの外食、ゆで餃子春雨のおいしさは忘れられない。玉音放送を聞いたのは国民学校1年生。敗戦で一転、ロシア軍の南下、暴力を見て母は髪をバッサ

満鉄(南満州鉄道)

南満洲の鉄道会社。日露戦争に勝利した後、1905年(明治38年)に締結されたポーツマス条約に基づき、東清鉄道南満洲支線(長春・旅順間鉄道)などはロシアから日本に譲渡された。この鉄道事業および付属事業を経営する目的で1906年(明治39年)に設立された半官半民企業。日本の満洲経略において重要な位置を占めた企業ともなった。

満州開拓団

1931年(昭和6年)の満洲事変以降、1945年(昭和20年)の太平洋戦争敗戦までの期間に日本政府の国策によって推進された、満洲、内蒙古、華北に入植した日本人移民の総称である。1932年(昭和7年)から大陸政策の要として、また昭和恐慌下の農村更生策の一つとして遂行され、満洲国建国直後から1945年の敗戦までの14年間に日本各地から満洲・内蒙に開拓民として、27万人が移住した。満蒙開拓移民まんなうかいたくいみんとも言われる。

自警村(鉄道自警村)

中国東北地区(旧満洲)に存在した、南満洲鉄道(満鉄)が、鉄道警備のために、その沿線に銃器を所持した日本人農民移民を入植させた独自事業。

オンドル

韓国式の床暖房のこと。

ハルビン

中国の最北端にある黒龍江省の省都。

り。今日の友は明日の敵、現地人からの略奪の始まり。親子8人の徒歩と列車の南下、列車は発車停車の連続、停車中降車して休んでいると動き出し飛び乗れた人、乗れなかった人、運命の決まる悲しさ。途中中国人の子供達が**不発弾**から火薬を取り出そうとして爆発、大勢の人が死傷したことも、地獄です。

そんな中、弟（2歳）が栄養失調で死亡。近くの**忠霊塔**の脇に「晴れ着」を着せ埋葬。あくる日お参りに行くと弟は掘り起こされ「晴れ着」ははぎとられ丸裸の骸、目玉は鳥に突つかれ正視できない光景、両親は涙もでずじつと無言で埋めなおしてすぐに南下。又兄が半日行方不明に、父がどうやって探したか？やっとなれ帰りました。泣きながら子供を探す大人達を何度見たことか。今思えば父は戦地へ行かなかったので無事日本へ帰ることができた。いつぞやの**残留孤児**になっても不思議ではなかった。

引揚船（高砂丸）は**葫蘆島**から、配給は水っぱい三分粥とアリのついた乾パン、ずーっと空腹。母は自分の分を子供達にまわし、乳児（妹）の母乳はでない。そんな中、父が**軍足**の中に隠し持った白米を船の機関室で炊いて食べさせてくれたご飯のおいしさ、人生で一番の白米ご飯。下船は佐世保港、**しらみ**の駆除の**DDT**で髪は真っ白。父の故郷宮城へ帰る上野駅附近では親を亡くした子供達があふれ、後に**戦災孤児**として社会問題に。父の実家へ着いたのは**終戦**の翌年の秋、柿がたわわに実っていて、満州では柿がない。すぐに乳児の妹が死亡。

本家に同居し24人の大所帯、従兄弟達との食事競争はし烈、すばしい者が勝ち。数年後、古家を移築し我が家がでうれしかった。

学校は再度1年生より登校、でも戦後のこと、生活は豊かではなく、高校はアルバイトして両親を助けた。高校中退して大阪で就職、働きながら夜間高校で学び卒業。20代後半から難病（**バージャー病**）との戦い、幸い40代後半に専門の医者に出会い、今は小康状態で投薬しながら娘二人を育てあげ妻と二人穏やかに暮しています。苦労の中子供達を連れ引揚げてくれた両親に感謝。戦中戦後のできごと全て今の自分の糧になっています。最後に一言、上野駅で出会った戦災孤児の方々、満州で遊んだ中国人のアへ君、朝鮮人のソント力君等に呼びかけたい。戦後どのように生きてきましたか？みんな幸せな人生であったと思います！



佐世保港に入港した引揚船 写真提供：昭和館

・玉音放送

1945年8月15日正午から昭和天皇自らが太平洋戦争終結の決定を国民に伝えるために行ったラジオ放送。

・国民学校

1941年（昭和16）、それまでの小学校が国民学校に改められた。子どもは、個人の子どもではなく、お国の子どもとして教育され、戦争につながる教育が行われた。

・不発弾

何らかの不具合があつて爆発せずにある、砲弾などの弾薬類。

・忠霊塔

国難に殉じた戦没者を慰霊・顕彰するため、戦中・戦後に建てられた建造物。

・残留孤児

第二次世界大戦末期のソ連軍侵攻と関東軍の撤退による中国東北部での混乱で、日本（いわゆる「内地」）に帰ることができず、中国大陸への残留を余儀なくされた日本人のこと。

・引揚船

外地にいた日本人が、日本の本土（内地）に帰る際に使用された船。当時60万人以上といわれる日本人が海外に残されており、1949年末までに、624万人が帰還した。

・高砂丸

大阪商船の貨客船。太平洋戦争では特設病院船、戦争終結後は引揚船として運用された。

・葫蘆島

中華人民共和国遼寧省西南部にある地級市。第二次世界大戦後、東北地区の日本人引揚げ者の乗船地であった。

・軍足

袋状に編まれた靴下。軍用足袋の略。

・しらみ

哺乳類の皮膚に寄生し、血液を吸う。

・DDT

身体や衣類に付着したノミやしらみなどの害虫を駆除する薬品。

・戦災孤児

戦争によって保護者を失った子ども（孤児）全般を指す。

・終戦

1945年8月15日、正午からのラジオ放送により、ポツダム宣言の受諾、日本の降伏が国民に公表され、太平洋戦争が終結した。

・バージャー病

手足の血管が炎症によって狭くなったり詰まったりして、血行障害を引き起こす病気。



残留孤児にならず、 連れ帰ってくれた、 父母に感謝！

八尾市 永井 美恵子 84歳



私の戦争の記憶と云えば

小学生になる私と三つ違いの弟・母・除隊して満鉄に勤める父と社宅に住んでいました。叔父が戦地に行つて、祖母と叔母の家族、女の子・男の子、ほぼ同年令の子との生活に。祖母が私といとこを連れて、市場に買物に行くと、女の子を「買う」おいていけと、しつこかった。こわくて急いで連れ帰り二度と外出はなくなりました。髪も短くして服装も弟と同じようにし、いとはしやいでした。ある日、ロシア兵が家の中に、土靴で上がってきて、何やらわめきながら次ぎ次ぎと、家の中を荒らして、腕には、たくさんの時計を連らねている

残留孤児

第二次世界大戦末期のソ連軍侵攻と関東軍の撤退による中国東北部での混乱で、日本(いわゆる「内地」)に帰ることができず、中国大陸への残留を余儀なくされた日本人のこと。

満鉄(南満州鉄道)

南満洲の鉄道会社。日露戦争に勝利した後、1905年(明治38年)に締結されたポーツマス条約に基づき、東清鉄道南満洲支線(長春・旅順間鉄道)などはロシアから日本に譲渡された。この鉄道事業および付属事業を経営する目的で1906年(明治39年)に設立された半官半民企業。日本の満洲経略において重要な位置を占めた企業ともなった。

除隊

兵役を解除されて軍隊から帰ること。

のが不気味で、不安と恐怖を感じる一瞬も。

1945年8月15日、敗戦・日本への引き揚げが、私達の身にも始まりました。先に祖母と叔母達がいなくなりました。

さびしくなった、私達も、1947年、小学校に上がる私、3歳の弟と家族で、満鉄の社宅を後に。トラックでの道中ぬかるみにはまると荷台からおろされて歩くのですが、弟の手をにぎって、一生懸命はぐれないようついていきます。母は乳児がいたので荷台に。母の姿から目をはなさずがんばったと……。

大連からの引き揚げ、船着き場には、たくさんの人、迷子になりそうでした。

船底は、2階になっていて、ハシゴで上がり船旅のはじまりです。弟がじつとしていないと、面倒みる私、ついてまわる私、ある日甲板に出る弟を追って出てみた光景は、泣く人と、むしろに包まれたものを海の中に入れる瞬間でした。こわくなって弟を連れて母の元に。死んだ人のそう式と知り、二度と甲板には、上がっていきませんでした。

海の底で眠っている人々は無念だと思います。日本に帰れたかっただろうに、今も心に残っています。

吉林省から大連、長い船旅、日本の地

佐世保港に着いてから、荷物がなくなっているのに気づかされたが、身一つでいい、家族そ



引き揚げ

国外にいた日本人が、日本の本土(内地)に帰ること。当時、660万人以上といわれる日本人が海外に残されており、1949年末までに、624万人が帰還した。

大連

中国遼寧省の工業・港湾都市。遼東半島の南端に位置する。第二次世界大戦後、旅順と合併して旅大市となつたが、1981年に再び大連と改称。



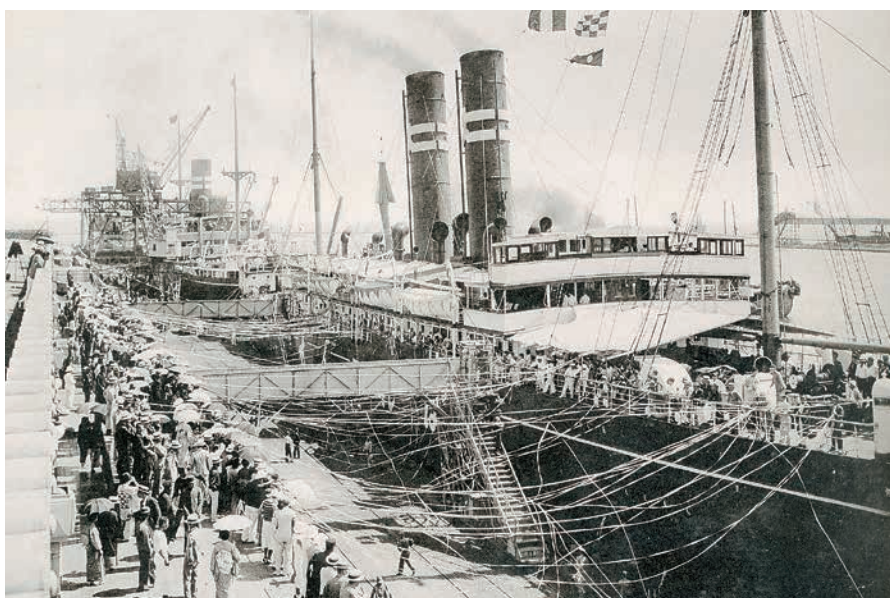
ろって着いた喜び、先に引き揚げた祖母の元に叔母、いとも元気で会えた喜び、子供心に心細かった事も忘れませんでした。

2024年12月9日、84歳の誕生日に記しています。弟も先に亡くなり、去年はいとこ達もいなくなり、私一人、なぜ、私は生かされているのか。戦争で失うもの、悲しみ、恐さ、生きるつらさ、今もおきつゝある、不安な世の中。戦争、反対と願いたい。

私には

出生地だけが残っている、

中国吉林省懷徳県公主嶺 公主嶺街



大連の地 写真提供：舞鶴引揚記念館

大阪大空襲による二度の被災体験

大阪狭山市 谷川 勝二 93歳



私が13歳の頃に体験した『大阪大空襲』についてお話し致します。

6年間通った天下茶屋国民学校の卒業式を明日に控えた昭和20年（1945年）3月14日の夜、真新しい服を枕元に置き、寝床につきましたが深夜、空襲警報（大阪で初めての大阪襲）が発令され、父親に起こされ庭に作ってあった防空壕に防空頭巾をかぶって、避難しました。

ゴーゴーと凄まじい音を立てて、B29（アメリカの戦略爆撃機）が襲来し、焼夷弾によって、わずかな時間で多くの家が焼かれて、一面が火の海となり、とても恐ろしい思いをしました。すぐに、その場を離れなくてはな

大阪大空襲

1945年3月13日深夜から翌日未明にかけて最初の大阪大空襲があり、その後、6月1日、6月7日、6月15日、6月26日、7月10日、7月24日、8月14日に空襲があった。これらの空襲で1万人以上の一般市民が死亡したと言われている。

国民学校

1941年（昭和16）、それまでの小学校が国民学校に改められた。子どもは、個人の子どもではなく、お国の子どもとして教育され、戦争につながる教育が行われた。

空襲警報

敵軍航空機による空襲から避難を促すためにラジオやサイレンなどで知らせる警報。

防空壕

空からくる敵の攻撃に対し、避難するために掘ってつくった穴やみぞ。

防空頭巾

戦時中、空襲などの際に飛来物から頭を守るためにかぶった綿入れの頭巾。



らず、家族と隣人と一緒に火のトンネルの中をはいくぐり、少しでも被害の少ない方面に避難しました。母親は次姉の生後一か月足らずの赤ちゃんを抱え、『前には進めない、もう一歩も歩けない』と言って、座り込んでしまいましたが、父親に引きずられ、必死で、その場を離れました。火の手が上がる中、空き地の多い工場地域へ逃れ、ある鉄工所の大きな前庭の敷地に避難させて頂き、朝までお世話になりました。本当にありがたかったです。

翌朝、自宅周辺へ戻りましたが、自宅も、近所で父親が店を構えていた商店街も焼失し、あたり一面が焼け野原となっていました。周辺では知人の蔵だけが残っており、その蔵の中に一竿の箆笥を預けさせて頂いていたため、着るものに関しては助かりました。逃げ遅れて亡くなった同級生や知人がいたことを後で聞かされました。

私達家族は怪我もなく、無事に逃げ延びることができました。家は焼失しましたが、幸い、叔母（母親の姉）が住んでいた萩ノ茶屋の家の隣に空き家があり、当面の住まいにすることができました。

しかし、私達家族はさらなる悲劇に見舞われます。6月7日、再びB 29が襲来し、防空壕に避難しましたが、家は炎上しました。防空壕から出ると目の前の壁に**不発弾**が突き刺さっており、少しタイミングがずれていれば、直撃を受けたかも知れないと思うと生きた心地がしませんでした。逃げる途中の道路にも焼夷弾が所々に着弾していて、周辺一面は火の海となり、た

いへん恐ろしい思いをしながらも、家族で阿倍野斎場墓地に避難しました。数時間後に降ってきた黒い雨の下で、初めて泣きました。

焼夷弾による二度の被害にあいながら、家族全員が無事だったことは奇跡です。80年前に、二度も家を焼き出された私が戦争のない現在の日本に思いを馳せるとき、この体験を伝えてゆくことが大切であると感じて、筆を取りました。今は7人のひ孫に囲まれて幸せな良い人生を送っています。とてもありがたなことだと思っています。



B 29で焦土となった大阪の街 写真提供：昭和館

B 29

アメリカのボーイングが開発した大型戦略爆撃機。B 29による日本本土空襲は、日本の継戦能力を喪失させる大きな要因となった。

焼夷弾

敵の建造物や陣地を焼くことを目的とした砲弾や爆弾。木造の日本家屋を効率よく焼き払うために使用された。

不発弾

何らかの不具合があつて爆発せずにある、砲弾などの弾薬類。

母の赤紙

羽曳野市 坂本 美枝子 99歳
(代筆 坂本敬子)



る。そんな中を、必死に寮から病院へと救護に走る。

病院の隣にある**軍医学校**に焼夷弾が落下し、延焼したのだ。病院も煙に巻かれ、母は走っている途中に倒れ、全く息が出来ず、そのまま廊下で意識を無くしてしまった。すぐに友が気づき、なんとか引き摺り出されて、助かっている。今考えても、死んだと思う瞬間だったと言いつ。その後も**空襲**は激しくなり、寮も焼失した。着替える物も無い。友とは互いに肌着貸し借りの、助け合う日々。母は遺言書までも、常に肌身に着けていた。交替で故郷に衣服を取りに帰るが、**東京大空襲**で再度、全てを焼失してしまう。

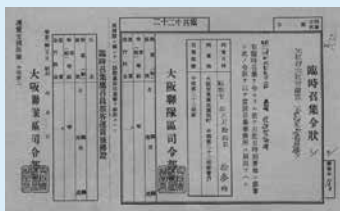
八月十五日に**終戦**となったが、救護はその後も続き、母は**原爆**治療にと広島に向かう。東京からの列車は人、人、人の鈴なり状態だ。通過地点を父親に連絡していた。約束の時間に淡路島から娘に会うために神戸駅に着く。手には班二十人分のかき餅を持ち、一昼夜ホームでまだかまだかと、待った。しかし列車は遅れ、会えずじまいとなる。

母は広島の子品病院に着くも、横たわる人の形相はひどく、男も女も解らない。目をそむけなくなる悲惨な状態だ。原爆は恐ろしい物だった。戦争に負けた現実を実感する。瞬間、人の命が粗末にされる戦争のむなしさ、苦しさ、怒涛のように押し寄せてきたと言いつ。

大正に生まれ、純粋な気持ちで**ナイチンゲール**に憧れ、看護婦になった母。乙女心を捨てお国の為にと、ひたすら戦争による救護に徹した青春時代。

母は一月誕生日で九十九歳になった。時代は荒波を生きてきた。昭和十九年九月、十八歳の時、日赤看護婦班として**赤紙**が来る。淡路島の実家から、日の丸小旗と万歳で送り出され出征した。ひとりで船に乗り、不安なまま列車を乗り継ぎ、見知らぬ東京駅で、病院婦長と待ち合わせる。新宿にある東京第一陸軍病院に出向く。**傷痕****軍人**の看護のためだった。年が変わり、戦争はさらに激しくなっていく。空爆被害は増していく。ある晩、突然**空襲警報**が鳴り響いた。飛び起きた瞬間、**B 29**の**焼夷弾**で、空は真っ赤に染まっていた。炎は身近にも上がり、火の粉もドンドン落ちてく

赤紙 あかがみ
召集令状の俗称。用紙が赤いことからこのように言われた。軍隊に召集する命令文書。



赤紙
写真提供：大阪母親大会連絡会

傷痕軍人 しやういぐんじん
戦争において傷痕を負った軍人・軍属。

空爆 くうばく
「空中爆撃」の略。航空機から地上を爆撃したり銃撃したりすること。空襲とも呼ばれる。

空襲警報 くうしゅうけいほう
敵軍航空機による空襲から避難を促すためにラジオやサイレンなどで知らせる警報。

B 29
アメリカのボーイングが開発した大型戦略爆撃機。B 29による日本本土空襲は、日本の継続能力を喪失させる大きな要因となった。

敵の建造物や陣地を焼くことを目的とした砲弾や爆弾。木造の日本家屋を効率よく焼き払うために使用された。

焼夷弾 しやういだん
敵の建造物や陣地を焼くことを目的とした砲弾や爆弾。木造の日本家屋を効率よく焼き払うために使用された。

軍医学校 ぐんいがっこう
軍医や看護士、薬剤師を養成する教育機関。

空襲 くうしゅう
航空機から地上を爆撃したり、銃撃したりすること。

東京大空襲 とうきやうだいくしゅう
第二次世界大戦末期の1945年(昭和20年)3月10日にアメリカ陸軍航空軍によって実施された、東京都区部に対するM69焼夷弾などの焼夷弾を用いた大規模な無差別爆撃。

終戦 しゅうせん
1945年8月15日、正午からのラジオ放送により、ポツダム宣言の受諾、日本の降伏が国民に公表され、太平洋戦争が終結した。



ウクライナの戦争も映像でしか知らない私と、
経験をした母との差は大きい。本当の平和の
重みを知る母に、戦争話を聞いておきたい。



広島県産業奨励館(原爆ドーム)と爆心地付近
撮影：米軍 写真提供：広島平和記念資料館

・原爆

原子爆弾のこと。ウラン、プルトニウムなど核分裂反応で発生する熱線・爆風・放射線で殺傷、破壊する爆弾。



広島に投下された原子爆弾
「リトルボーイ」
米国国立公文書館所蔵
写真提供：広島平和記念資料館

・ナイチンゲール

フローレンス・ナイチンゲールは、イギリスの看護婦、社会起業家、統計学者、看護教育学者、「近代医療統計学および看護統計学の始祖」ならびに「近代看護教育の母」。統計学の業績について高く評価され1858年には王立統計学会初の女性会員となった。